

岐阜女子大学の地域資料デジタルアーカイブの発展について

～実践研究報告・資料の考察より～

Development of Gifu Women's University's Digital Archive of Regional Materials

久世 均^{*1} 加藤 真由美^{*2}

岐阜女子大学の地域資料デジタルアーカイブは、次のように発展してきた。

- ①初期の地域資料の記録・管理の方法
- ②多視点撮影・記録・オーラルヒストリーの記録・管理
- ③地域資料デジタルアーカイブの利活用（知的創造サイクル）
- ④地域資料の拠点の構成（ブランディング事業による）
- ⑤新しい知的操作処理の利用（AI、生成 AI、メタバース等）

このような発展の状況について実践研究報告・資料報告を基に報告する。

<キーワード> 地域資料、デジタルアーカイブ、記録、管理、利活用、AI、生成 AI

1. 地域デジタルアーカイブ

～マルチメディアデータベースの発展～

岐阜の初期のマルチメディアデータベース（1990 年頃）は、地域の人々の生活、歴史（史料）、文化、芸能、自然、災害、産業の資料や口承（オーラルヒストリー）等で構成する記録・管理とその広く教育、観光、家庭等での利用を目的として開発を進めた。

たとえば長良川の水文化では、長良川の支流も含めた地域の人々の生活、歴史、文化、河川、災害、自然、産業等や関係する地域の史料や人々の話等をまとめマルチメディアデータベースを構成し、観光、教育、家庭等で広く利用を可能にする目的で開発が進められた。

その後、1994 年に東京大学の月尾嘉男氏によるデジタルアーカイブの提唱があり、名称は統一するのが混乱しないと受け止め、これらのマルチメディアデータベースもデジタルアーカイブと表現している。

2000 年には、岐阜女子大学に文化情報研究センターを設置し、デジタルアーカイブの記

録、管理、流通、利活用の実践研究を始めた。

2. 岐阜女子大学の地域デジタルアーカイブの実践

～記録、管理、利活用について～

岐阜女子大学のデジタルアーカイブの実践研究の内、地域デジタルアーカイブは次のような割合で研究が進められてきた。

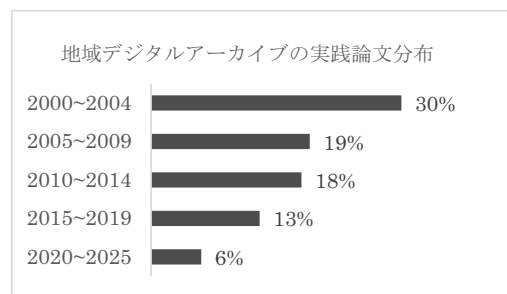


図1 地域デジタルアーカイブの実践論文分布(年)

主な実践研究としては、次のようである。

① 2000～2004 年

地域デジタルアーカイブの各領域での記録、管理、特に「長良川の水文化」について、国土交通省、岐阜県、NPO、文溪堂等の協力で

^{*1} KUZE, Hitoshi 岐阜女子大学 ^{*2} KATO, Mayumi 岐阜女子大学

長良川の水源から河口までの文化、自然、河川、芸能、産業等の支流域も含め総合的なデジタルアーカイブの開発を進めた。

② 2005～2009 年

岐阜県・沖縄での地域文化と関係者によるオーラルヒストリーを記録し、地域デジタルアーカイブの資料間の関連性の情報提供について可能にした。

③ 2010～2014 年

「知的財産推進計画 2005」に報告されたデジタルアーカイブの知的創造サイクルの提案を基礎とした知の増殖型サイクルを開発し、地域資料デジタルアーカイブの適用について実践研究を進めた。(例、沖縄おうらい)

④ 2015～2019 年

私立大学研究ブランディング事業“地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成の基礎整備事業”としての高山・白山文化のデジタルアーカイブの実践研究を進めた。

⑤ 新しいデータ処理を利用

これまでの地域資料のデジタルアーカイブを基礎にして、AI、生成 AI、メタバース等を用いたデジタルアーカイブの新しい利活用の実践研究を進めた。

3. 地域デジタルアーカイブの初期の展開

マルチメディアデータベースとして 1990 年代に地域資料のデータベースの開発を進めたが、それを基礎に地域デジタルアーカイブとしての構成を展開したのが 2000 年～2009 年であった。

(1) 地域・各領域での試行開発

地域に関するデジタルアーカイブについて広く試行開発したのがこの時期(2000～2004 年)の特色であり、また、長良川の水文化はこれらを基礎に総合的なデジタルアーカイブとして構成している。その結果、自洗研究報告資料の分布も次に示すように全域について

実践研究が展開した。

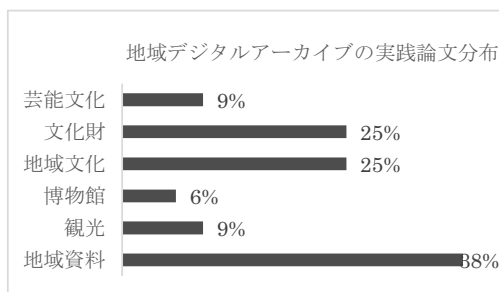


図 2 地域デジタルアーカイブの実践論文分布 (内容)

(ここでの地域資料としては、地域の自然、生活、産業、河川等である。)

① 芸能文化

芸能文化は、2000 年からの飛騨地方の民話(種蔵泰一)や西米良村所神楽などの記録、管理が始まった。



種蔵泰一氏



人々に語っている様子を記録



宮崎県西米良村所神楽

図3 地域デジタルアーカイブ（芸能文化）

② 文化財

白川郷の和田家の撮影と当主のオーラルヒストリーで合掌造り、高山の古い町並等の記録・管理を施行した。



和田家外観



和田正美氏オーラルヒストリー

図4 地域デジタルアーカイブ（文化財）

③ 地域文化

伊奈波神社の縁起巻物や高山市の文化資料の撮影・記録・管理の試行を実施した。



伊奈波神社の縁起巻物（岐阜県重要文化財）



巻物の撮影時の様子

図5 地域デジタルアーカイブ（地域文化）

④ 博物館

博物館は野外博物館も含め各種の博物館の記録・管理の試行をした。



岐阜県博物館の特別展示
「いにしへの美濃と飛騨」展示物



飛騨民俗村「飛騨の里」春の記録



飛騨民俗村「飛騨の里」冬の記録

図6 地域デジタルアーカイブ（博物館）

⑤ 地域資料

「長良川の水文化」として、国土交通省、岐阜県、文溪堂、NPO等の協力で長良川の水源地から河口までをヘリコプターで撮影、長良川とその支流の市町村も含め、文化、自然、河川、芸能、生活文化、農業、水産業など地域の総合的な記録とその説明で構成するデジタルアーカイブを構成した。（2002年から3年計画で実施）



源流の流れ



長良川のアユの一年



輪中の農業



輪中場で止まった豪流（本曾川上流河川事務所提供）



長良川河口堰

図7 地域デジタルアーカイブ（地域資料）

このような地域での各種資料の撮影・記録・管理の方法の実践・試行を実施し、これらの結果を岐阜女子大学デジタルミュージアムで公開した。

また、地域資料をデジタルアーカイブで管理するため、メタデータを次の図のように構成した。

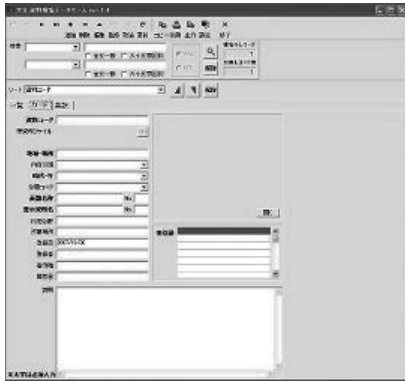


図 8 地域資料データベース

岐阜女子大学では、2000 年～2004 年で各種地域資料の記録方法を開発した。

- 谷里佐・和田正人・杉山博文・谷口知司（2001）
地域資料「白川郷」のデジタルアーカイブ化について(1)～和田家関連資料のデジタル化～、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.2
- 古池嘉和・谷口知司（2001）地域における定住・交流政策とデジタルアーカイブの役割に関する一考察―姉川流域をフィールドとして―、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.3
- 後藤忠彦（2001）地域文化情報管理のための二次情報の構成の課題、岐阜女子大学文化情報研究センター研究報告 Vol.3
- 後藤忠彦・林知代・谷里佐・久世均・三宅茜巳・谷口知司・楓森博（2003）岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.4
- 加藤真由美・谷里佐・後藤忠彦（2003）宇佐神宮のデジタルアーカイブスの制作(1)～資料収集管理のためのデータベースを用いた～、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.4
- 谷里佐・加藤真由美・安田紫織・林佑佳・桐井和美・後藤忠彦（2003）南宮大社デジタルアーカイブスにかかわる資料データベース化の試行(1)、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.4
- 林真子・谷里佐・林知代・後藤忠彦（2004）文化財(巻物)のデジタル・アーカイブスについて(1)―伊奈波神社縁起巻物のデータベース化―、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.5-3

4. 多視点撮影・記録とオーラルヒストリーの利用

地域資料の基礎的な記録から、地域芸能文化の記録、地域社会、歴史の記録として、必要な撮影記録の方法の開発が 2005～2009 年に試行研究が進められた。

踊り、舞等の多視点からの撮影・記録や地域資料の社会的背景、歴史的な伝承をオーラルヒストリーを用いて記録が始まったのが 2005 年以後である。

2005 年以後に実践研究報告は芸能文化が多くなり、地域資料と合せての記録が始まった。

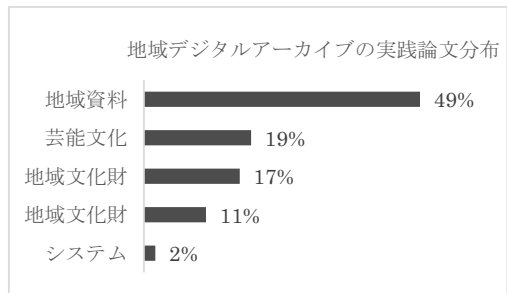


図 9 地域デジタルアーカイブ分布（2005 年以後）

地域資料の説明として地域の専門家によるオーラルヒストリーの記録をし、各資料間の関連性、さらに地域間の地域資料に関する関連性、さらに歴史的、生活的な視点での説明がオーラルヒストリーより情報提供される。このようなオーラルヒストリーの記録・管理を地域資料の記録と合せて実施したのが、2005～2009 年の時期である。

また、芸能文化の踊り、舞等について、多視点から同時に撮影し、一方向からの撮影に対し各支店からの補正(助)データを追加し、より正しく記録できるようにした。

(1) 多視点からの撮影・記録

現存している昔からの踊りをいかに伝えるかの検討が進み、多視点からの同時記録（撮影）・保管を実施した。



延年の舞（長滝白山神社）を4方向から撮影



郡上踊り（古調かわさき）を8方向から撮影

図10 地域デジタルアーカイブ（多視点）

さらに、この撮影に対し、専門家（踊り手）が間違い・問題点の指摘をビデオで撮影し、正しく伝承できる工夫をした。



図11 専門家（踊り手）による指摘

このような多視点からの撮影は他の分野でも利用されだした。たとえば、沖縄の空手も次に示すように8方向から撮影している。

8方向撮影 - 沖縄空手

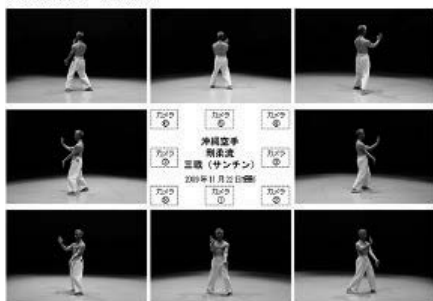


図12 沖縄空手を8方向から撮影

藤里明久氏（毛越寺執事長）

藤里明久氏がシンポジウムで伝統芸能の記録について次のように話されている。

デジタル・アーカイブという記録保存、そういうことについてちょっと話させていたきたいなと思っていますが、伝統文化というのか、伝統芸能と申しますか、そういうものはやっぱり人から人へ伝承する、伝えていくという作業があります。それで、人は十人十色、それぞれみな違いますし、声の出し方も違う、身体の大きさも違う、いろんなことがあります。それから、いろいろ技術的なことも違うと思うんですけども。

その違いというのは、1年、2年だけでなく何百年と伝えていくなかで、少しずつ変わってきたりしているのだろうなと思います。これは何か書物で書きあらわしたから残る、伝わるというものでもないなと思います。最近の新しい技術といいますか、そういうもので伝統芸能を残していくということは、われわれ伝承者、何かの郷土芸能なり、民俗芸能の伝承者にとっても、非常にありがたいことだろうというふうに思っております。

ただ、例えば、この岐阜女子大学で記録されたものがいまあって、何十年後かにそれを見て、「あのときといまと、ちょっと違うね」というような話になったときに、どちらが正しいんだろうかという、確かめようがない部分があります。どうしても古いほうが正しいんじゃないかと思ったりすることがありますが、実は、たまたまその人が間違っていたと、みんなわかっていただけ、そういうこともままあるわけでありまして。

それで、そういうデジタル化されたり記録されたものが、われわれ伝承している現場にもう1回フィードバックされて、そこでまた検証されていって、何回かそういうものを繰り返し返していくと、全体としての、ある意味で完全なカタチが伝わっていくのかなと思います。

それでも、映像というのはある一面でしかありませんので、四方から見れば、みんな人間の姿が違うわけですから、演じている者にとっては片面、あるいは4分の1しか見ていない。それをすべてそうだよという完全なものとしては、なかなか見られないのですけれども、声の出し方、あるいは手の動かし方、脚の動かし方、これはなかなか口だけでは伝わらないものですので、映像があることによって、こういう伝統芸能が残されてい

く。そういうかたちになるのではないかなと思っております。

(2008年9月6日シンポジウム「伝統文化の継承とアーカイブ・観光・教育の今後の課題」より)

(2) 地域資料の記録と合せてオーラルヒストリーの記録

地域資料の記録・管理した内容の説明や他の地域との関係などをオーラルヒストリーとして歴史的な背景等も含め話された記録を関連付けて保管する。

エイサー、いわき市の念仏踊り、袋中上人、おもろ、袋中上人の活動も含めて宜保榮治郎氏のオーラルヒストリーを記録し、これらの関係について理解を深める。



菩提院（福島）



じゃんがら念仏踊り



平敷屋青年エイサーの夕べ



宜野湾市青年エイサー祭り



宜保榮治郎氏オーラルヒストリー

図13 地域デジタルアーカイブ（オーラルヒストリー）

- 持田諒・加藤真由美（2006）文化財・地域文化等のデジタル・アーキビスト用の教材の整備（1）、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.7-4
- 久世均・久田由莉・後藤忠彦・岩田彩見（2006）岐阜県郡上市「郡上踊」のデジタルカメラを用いた多方向同時撮影記録、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.8-2
- 後藤忠彦・久田由莉・三宅茜巳・松野光暢・岩田彩見（2006）無形文化財「延年の舞」のデジタルカメラを用いた多方向同時撮影記録の方法、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.8-2
- 谷里佐・大澤浩子（2007）白川郷和田家オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ—その視点と方法—、教情研究 E107-1
- 久田由莉・久世均・三宅茜巳他（2007）無形文化財「延年の舞」のハイビジョンを用いた多方向同時撮影記録の方法、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.8-8
- 大木佐智子・後藤忠彦・林知代・佐藤正明（2008）世界遺産白川郷・五箇山のデジタル・アーカイブの位置・方向・時刻（GPS）の記録に関する研究～

文化財の伝承、活用のためのコンテンツの二次情報の構成～、教情研究 E108-1

○長瀧白山神社宮司 若宮多聞（2009）講演「白山文化をいかに継承するか」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.10-2

○五箇山村上家当主 村上忠兵衛（2009）講演「世界遺産“白川郷・五箇山”の合掌造りの里に見る伝統文化」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.10-2

○白川郷和田家当主 和田正人（2009）講演「世界遺産“白川郷・五箇山”の合掌造りの里に見る伝統文化」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.10-2

○国立科学博物館館長 佐々木正峰（2009）特別講演「地域の伝統文化をいかに継承するか」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.10-2

5. 知的創造サイクル（知的財産戦略本部） ～知の増殖型サイクル～

デジタルアーカイブの知的財産戦略本部「知的財産推進計画 2005」の報告書で知的創造サイクルの重要性について指摘された。

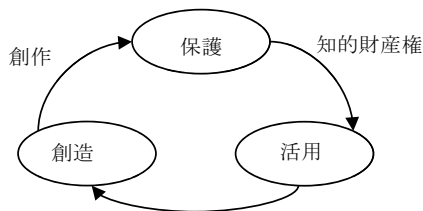


図 14 知的創造サイクル

これに対し、岐阜女子大学では実践に対応できる知の増殖型サイクルを構成し、利用を展開した。その構成は、基本的には PDCA サイクルを利用し、さらにその結果をデジタルアーカイブに再記録し、より精度の高いシステムとした。

また、2010 年代は、岐阜女子大学および沖縄サテライト校（大学・大学院）で岐阜・沖縄での地域デジタルアーカイブの記録・管理・利活用が最も発展した時期である。

（1）地域デジタルアーカイブの充実と観光情報の整備・実施

沖縄での地域資料の記録・管理と沖縄おうらい（観光情報）の実践研究が発展した時期である。（2010～2014 年）

この時期の実践研究報告資料の分布は、図 15 の通りであり、沖縄での観光情報（沖縄おうらい）のシステム開発及びそれを支える地域デジタルアーカイブの各分野での開発、研究が進められた。（当時岐阜でも“飛騨おうらい”の開発も進められた。

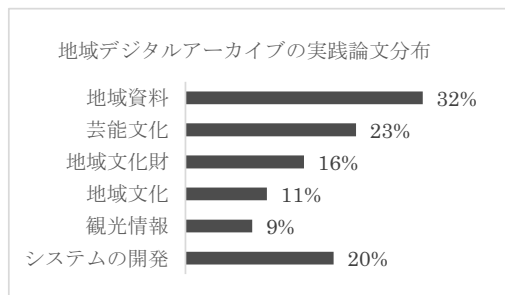


図 15 地域デジタルアーカイブ分布（2010-2014 年）

修学旅行で毎年 1 万名が利用

特に“沖縄おうらい”は 2011 年から中部地方の高校で沖縄へ修学旅行に行く高校生に利用され、開発（2011 年）からコロナ感染症の時期（2019 年）等で中止にされるまで、毎年 1 万名以上の高校生が修学旅行利用していた。

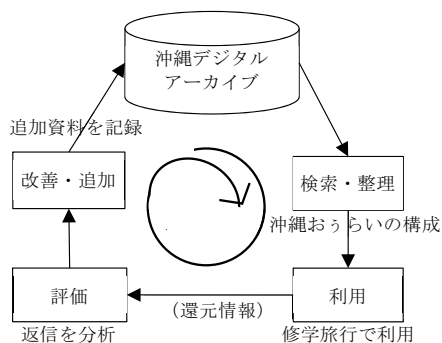


図 16 計画・活用・評価・改善のサイクル
～知の増殖型サイクル～

この沖縄おうらいは、高校生が修学旅行で利用し、その結果を高等学校や生徒から“よりよくするための指摘”の情報を得る。この還元情報をファイルし、毎年改善をする。次の年には改善した“沖縄おうらい”を修学旅行に用いる。この評価・改善を繰り返し、約10年間よりよい沖縄おうらいの構成・開発を行った。(加藤真由美)

(メモ)

知の増殖型サイクルの手順
～沖縄おうらいの毎年の改善提供～

①沖縄デジタルアーカイブ

2006年から沖縄の各地の地域文化資料デジタルアーカイブの記録を中心に管理されているデータベースを作成している。

②沖縄観光情報の検索・抽出

沖縄の観光に適する資料を抽出し、沖縄おうらいを構成する。(沖縄の修学旅行に適する資料の計画に対応して)

③沖縄おうらいの提供

沖縄修学旅行で利用

④利用結果の返信

高等学校、生徒からの「沖縄おうらい」を利用した結果の問題点の指摘を返信、それを還元情報ファイルで管理・評価・分析し、改善点を見出す。毎年1万名以上が利用していた。(2011～2019年)

⑤改善・追加

評価・分析結果を参考に改善し、更に不足資料の追加をし、デジタルアーカイブに記録した。

⑥新しく記録された資料も含め次年度の沖縄おうらいの構成し、利用計画を立てる。

このような毎年のくり返しにより、よりよい沖縄おうらいを構成してきた。

(注) 岐阜県の飛騨地方でも同様な「飛騨おうらい」を開発し、提供した。「飛騨おうらい」は英語、タイ語のHida おうらいを構成し提供した。

また、沖縄サテライト校の関係者(学生・院生も含む)の沖縄の地域資料(総合的な資料の記録)、地域文化財、地域芸能文化、地域文化等の記録・管理が併せて進められた。

このようにして、約10年間、“沖縄おうらい”のPDCAサイクルとして発展してきた。

沖縄おうらい(観光情報)は、2005年の知的財産戦略本部による知的創造サイクルに近い手法による知の増殖型サイクル(PDCAサイクル)による整備が進められた。

◆沖縄修学旅行おうらい“コンクール開催”

沖縄県へ修学旅行に行く高校生を対象に「沖縄修学旅行おうらい」の利活用を進め、高校生が修学旅行で撮影した画像や事後学習で作成した作品を対象にデジタルアーカイブのコンクールを開催している。

2015年度入賞作品



最優秀賞:『発見! 体験! 必見!』

岐阜県立岐阜総合学園高等学校 どんぐり

図 17 地域デジタルアーカイブ (コンクール)



優秀賞:「沖縄の地域研究作品 2015」
岐阜県立益田清風高等学校 地域研究

図 18 地域デジタルアーカイブ (コンクール)

また、沖縄サテライト校では、沖縄の小学校の学力・学習指導力の向上のために同様に知の増殖型サイクルを利用し、大きく学力が向上した(当時、沖縄の全国学力・学習状況調査の平均点が全国最下位であったが、小学校2校での実践研究では大きく学力が向上した。)

- 宮里祐光 (2010)「沖縄組踊」の説明、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.12-3
- 宮里祐光 (2010) 沖縄の獅子舞～浦添市勢理客の獅子舞を中心に～、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.12-3
- 大城學 (2010) 講演「沖縄の伝統文化を学ぶ」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.12-3
- 高良倉吉 (2010) 特別講演「首里城の復元と沖縄の文化」、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.12-3
- 大木佐智子 (2011) 地域文化財デジタル・アーカイブの撮影記録・提示利用の基礎研究、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.12-5
- 眞喜志悦子・照屋小百合・加治工尚子・新垣英司・谷里佐・稲福純夫・後藤忠彦 (2011) 沖縄の戦中戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化の課題、日本教育情報学会 第27年会
- 又吉斎 (2011) 大綱引きの観光情報としてのデジタル・アーカイブの構成、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.13-1

- 仲座正 (2013) 糸満ハーレーの継承と発展(創造)のためのデジタル・アーカイブ、沖縄カリキュラム開発研究 Vol.2 No.1
- 山中マーガレット・安藤義久・吉水淑雄・佐藤義隆・梶井芳景 (2014)「飛騨おうらい」の英語版の観光情報としての活用、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.16-5
- 加藤真由美・加治工尚子・大木佐智子 (2016) 沖縄地域文化 DA の「三宅の知の増殖型サイクル」機能を用いた観光資源の開発～沖縄修学旅行おうらい等の活用～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所テクニカルレポート Vol.2 No.1

6. 私立大学研究ブランディング事業

～飛騨高山匠の技、白山文化遺産

のデジタルアーカイブ～

平成 29 年度に文部科学省の私立大学研究ブランディング事業の「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業」で採択され、3 年間にわたりこれまでに本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、地域の知の拠点となる大学を目指し事業を展開してきた。

その中でも「飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブ」は、以下の点に注力して研究を進めてきた。

- ①伝統文化産業(飛騨春慶・一位一刀彫等)を多視点でデジタルアーカイブし、歴史的な視点を総合的にまとめ、匠の“こころ”をオーラルヒストリー等により「知の増殖型サイクル」を構成し、これらの一部を海外へ発信することにより伝統文化産業の振興を図る。
- ②伝統文化産業における匠の技とその歴史的な背景をまとめてデジタルアーカイブ化することで、伝統文化産業の理解と継承が容易に

なる。さらに、継承の過程で生まれた新しい知見を「知的創造サイクル」で取り込み、その利活用によって地域社会の振興を支援できる。

③フィールドにおける効果検証をするためのデジタルアーカイブ研究として捉え、解の見えない地域課題の解決をするための地域資源デジタルアーカイブとそのメソッドを確立する。

これらにより、地域の知が適切に循環・増殖することで新たな価値の創造と、これらを実践できる高度な専門的な知識を持つ人材の養成による雇用の創出を促進し、その結果として「知的創造サイクル」としてデジタルアーカイブの効果が認められ、さらにデジタルアーカイブの新たな展開が期待できる。また、これにより大学は地域に開かれた「知の拠点」となりうる。



図 19 地域デジタルアーカイブ（飛騨高山、白山文化）

この時期は地域資料（総合的）の記録・管理関係の実践研究報告・資料が次に示すように多い。

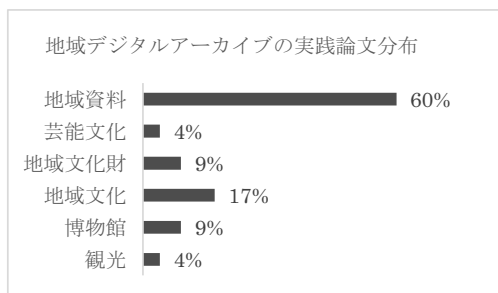


図 20 地域デジタルアーカイブ分布（飛騨高山、白山文化）

参考文献

- 久世均（2018）文部科学省ブランディング事業の採択と今後の事業展開について～地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所 年報 2017
- 久世均（2018）地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための実践的研究～デジタルアーカイブにより新たな価値を創造できる人材の養成～、岐阜女子大学 文化情報研究 Vol.19-2
- 林知代・久世均・瀬ノ上裕・作山祐香・樋口愛美・林亜衣（2018）飛騨匠の技デジタルアーカイブ開発、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究報告 2018 Vol.1 No.1
- 久世均（2019）平成 30 年度私立大学研究ブランディング事業の事業展開～地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備事業～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所 年報 2018
- 久世均（2020）地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための実践的研究【Ⅰ】～知的創造サイクルによる地域課題の解決手法の開発～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究報告 2019 Vol.2
- 久世均（2020）郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの新しい利活用の展開、アーカイブ DataReport15
- 久世均（2020）地域資源デジタルアーカイブにおける地域資料の保管、アーカイブ DataReport16

○久世均・熊崎孝之（2021）地域資源デジタルアーカイブによる地域活性化の研究～郡上白山文化遺産デジタルアーカイブによる知的創造サイクルの実現～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究報告 2020 Vol.3

○久世 均（2023）地域文化資料デジタルアーカイブの発展と今後の展開～岐阜女子大学における地域文化資源デジタルアーカイブの構築～、岐阜女子大学 デジタルアーカイブ研究所 年報 2021・2022(2)

○デジタルアーカイブ研究所（2023）資料集（飛騨高山匠の技編）

○デジタルアーカイブ研究所（2023）資料集（郡上白山文化遺産編）

7. メタバース、AI、生成 AI 等の新しい処理、利用（2020～2025 年）

2020 年頃より、メタバース、AI、生成 AI 等の新しい処理が汎化しだし、地域資料もこれらを用いた新しい展開が進み出した。その結果、実践研究報告・資料も地域資料が多くなってきている。

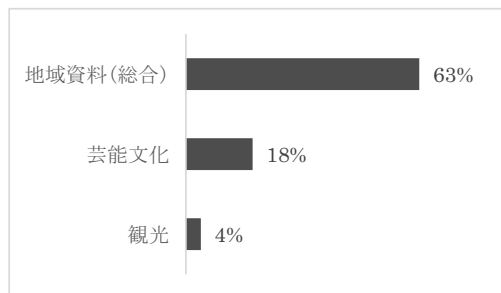


図 21 地域デジタルアーカイブ分布（2020～2025 年）

8. 今後の課題

高度情報通信社会における、生まれ育った地域の貴重な文化資源を記録・保存する地域のデジタルアーカイブの重要性とその手法を論じています。デジタルアーカイブは、地域

に対する新たな視点を提供するものの、その真価を引き出すためには、生涯学習の一環として教育機関と連携した地域の人々の参加が不可欠です。具体的には、地域を対象としたデジタル化事例を詳述し、地域の歴史的背景や資料を次世代へ正確に伝承する必要性を強調しています。最終的な目標は、収集した知的資源を活用して産業や教育に役立つ新たな価値を生み出す知の増殖型サイクルの実現を目指すことにあります。

岐阜女子大学のこれまでの地域資料の管理は、主として各地の地域資料の記録・管理と提示・問題解決・知的創造サイクルの実践研究にあった。その結果として各地の地の拠点としての役割が大きく、これらを用いた資料を基にした AI 活用が課題となってきた。

本学として、各地域の知の拠点としての記録管理は主に次のような地域を対象に行った。

- （1）飛騨高山・白山文化資料
- （2）沖縄の地域資料
- （3）長良川の水文化資料
- （4）おうらいによる観光地域資料

これらの資料を学習データとして AI 利用の発展が進みそうである。

最後に、本稿の作成に関して岐阜女子大学顧問後藤忠彦先生並びに多くの関係者の皆様に厚く感謝をいたします。